



大阪ガス



ガス炊飯電子ジャー 強火龙き

取扱説明書

保証書付

11-812・813型

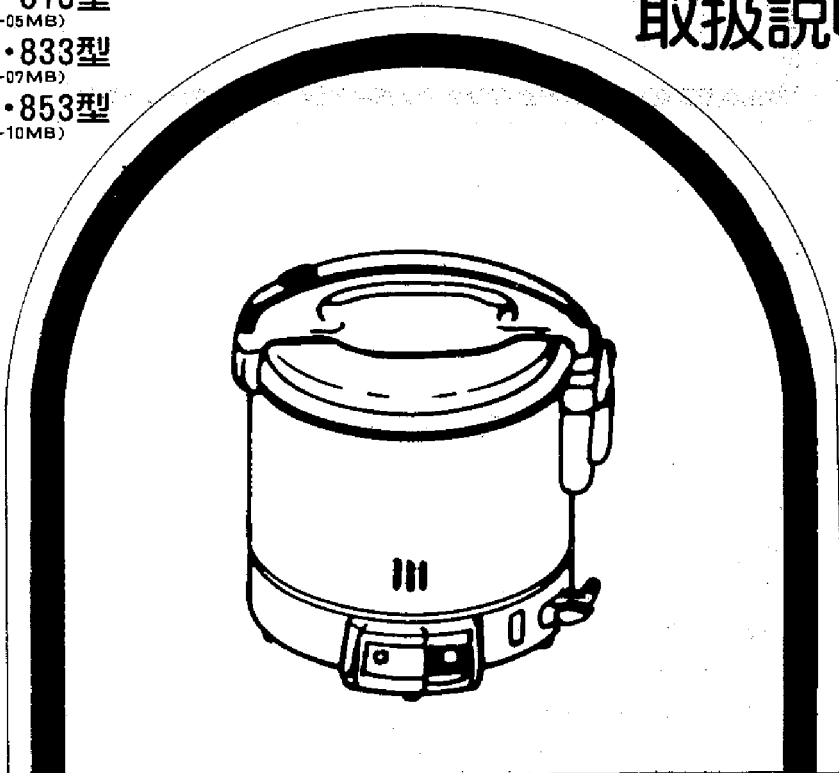
(型式名・RR-05MB)

11-832・833型

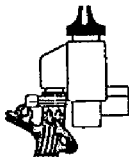
(型式名・RR-07MB)

11-852・853型

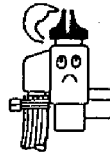
(型式名・RR-10MB)



ガス器具をお使いになる時のご注意



ガスゴム管も
ときどき点検
よいゴム管を
カッチリと



ガス器具を
お使いになった
あとは必ず
もとコックも
閉める習慣を



使用中は、熱
くなります。
手をふれない
てください



ガス器具は
ガスの種類にあった
正しいものを

・ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
なお、ご不明な点があればお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ごあいさつ

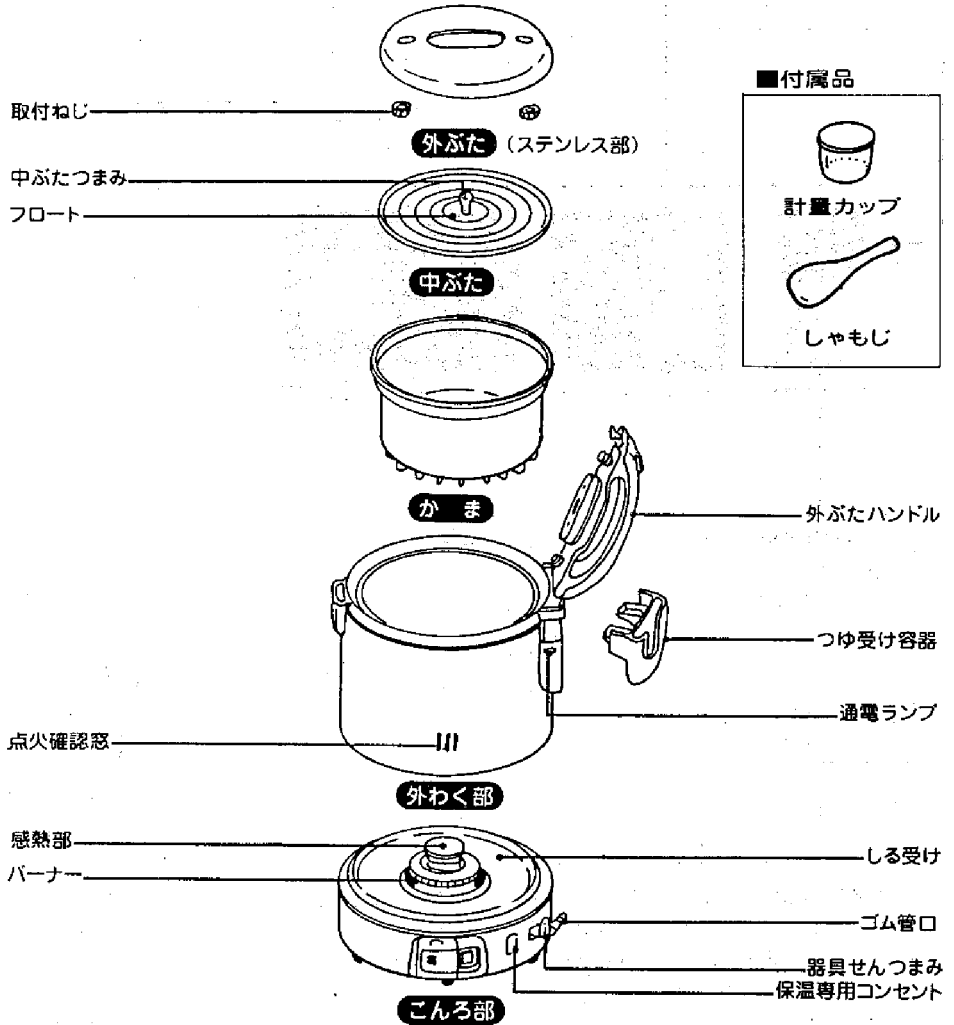
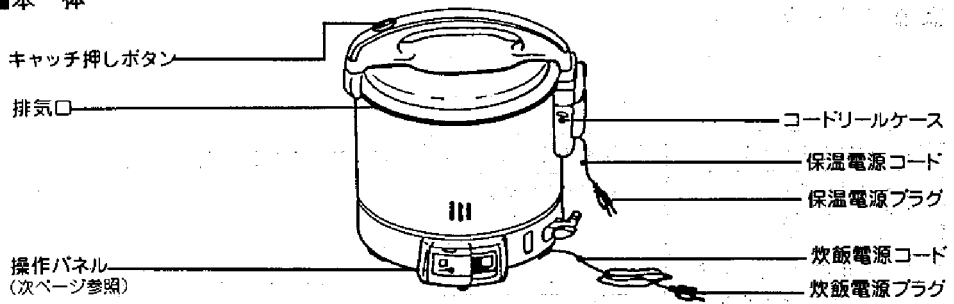
このたびは、大阪ガスのガス炊飯電子ジャー
をお求めいただき、ありがとうございました。
別添の保証書とともに、この「取扱説明書」を
大切に保存してください。

もくじ

・各部の名称	1
・特に注意していただきたいこと	3
・器具の設置について	7
・使用手順	8
・日常の点検とお手入れ	18
・安全装置が作動したときの処置方法	20
・故障・異常の見分け方と処置方法	21
・保管(長期間使用しない場合)	22
・アフターサービスのお申し込み	22
・寸法図と仕様一覧表	23

各部の名称と付属品

■本 体

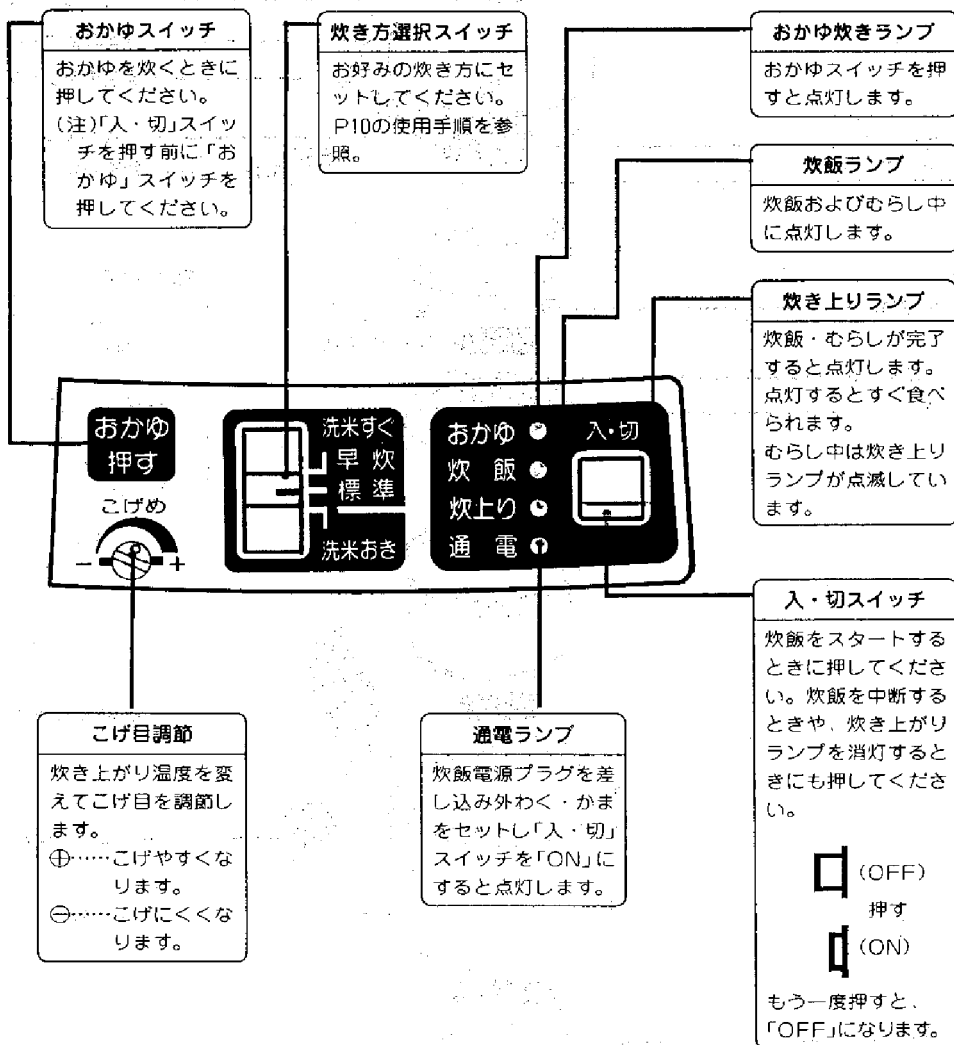


■付属品



各部の名称②

■操作パネル



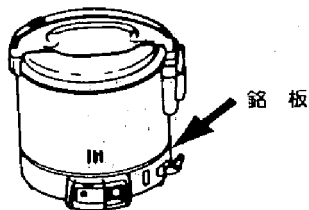
- 毎日同じ炊き方をされる場合は、「入・切」スイッチを押すだけで炊飯できます。
 - むらし時間(約15分)は、炊飯ランプの点灯時間に含まれています。したがって炊飯ランプが炊き上りランプに切替ればすぐに食べられます。
- (注) むらし中は炊き上りランプが点滅しています。

特に注意していただきたいこと

安全に正しくお使いいただくために、この項は必ずお読みください。

使用ガスについてのご注意

- ガスの種類を確かめてください。
- こんろ部の右側面にはってある銘板（ラベル）に表示のガスの種類とお宅のガスが一致しているかをまず確かめてください。
- ガスの種類には都市ガスとLPガスとがあり、都市ガスにはガスグループの区分があります。
- 転宅されたときも供給ガスの種類と器具銘板のガスの種類の一致を必ず確かめてください。



（銘板）

メーカー型式

ガスの種類およびグループ

ガス消費量
製造年月日および製造番号
製造業者名

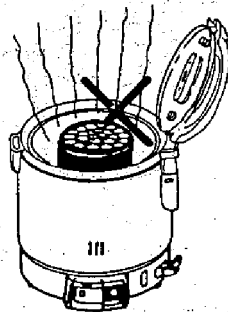
- 都市ガス用6C
- 都市ガス用6A
- 都市ガス用13A
- LPガス用

使用電源についてのご注意

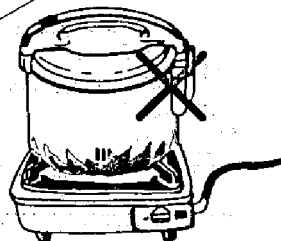
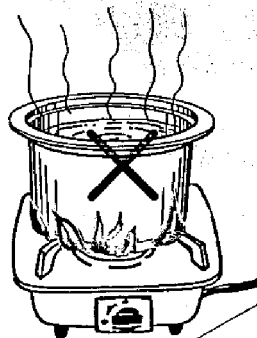
- 電源を確かめてください。
- この器具の電源はAC100V(50/60Hz共用)です。これ以外の電源では絶対に使用しないでください。

用途についてのご注意

- この器具は、炊飯専用ですから炊飯以外の用途（炭・練炭おこし等）には、絶対に使用しないでください。故障や異常燃焼の原因になります。



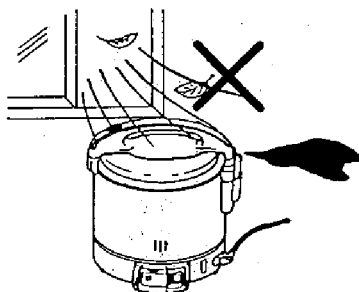
- この器具のがまは炊飯専用のがまですから他のこんろには使用しないでください。もし、使用されますとがまがいたんだり、こんろが異常燃焼したりします。



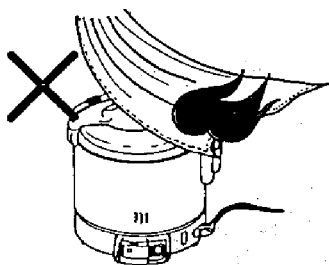
特に注意していただきたいこと②

使用場所についてのご注意

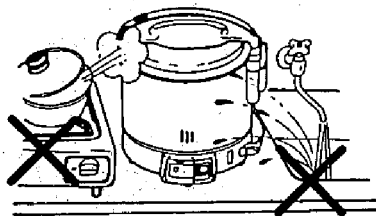
- 器具へ直接強い風があたるところでは使用しないでください。風で炎が吹き消されたり、異常燃焼の原因となります。



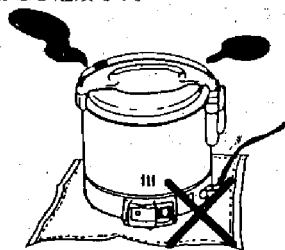
- 器具は、たなの下など落下物の危険のあるところや、カーテンや燃えやすいもののそばでは使用しないでください。
- 水平で丈夫な台の上に置いて使用してください。傾斜した場所に置きますとうまく炊飯できません。



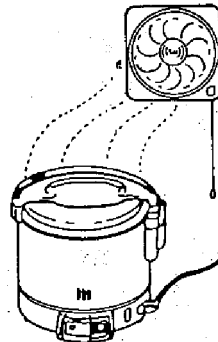
- 水のかかるおそれのあるところでは使用しないでください。
- 湿気の多い所では使用しないでください。
- 他の熱源の近くでは使用しないでください。



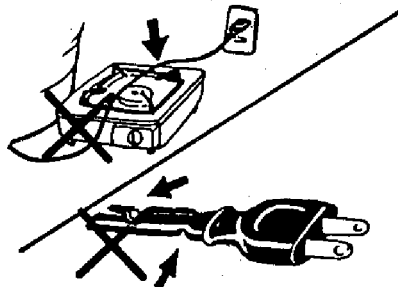
- 器具の下にふきんなどを置いて使用しないでください。
- 器具の下の空気取入れ口をふさがずと、不完全燃焼をおこし危険です。



- ガス元せんに手がとどきやすく、またガス元せんに熱気がかからないところに置いてください。
- 十分換気のできる場所でお使いください。



- 電源コードが他の熱源などの高温部分にふれたりしない場所でお使いください。
- 電源コードは傷んだまま使わないでください。又、電源コードを無理に折曲げたり引っ張ったり、ねじったりしないでください。

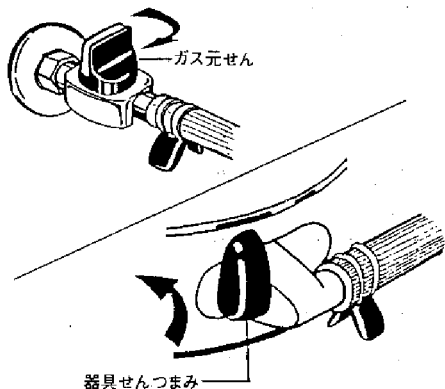


特に注意していただきたいこと③

使用上のご注意

ガス漏れ予防

- ゴム管はガス用ゴム管を使用し、ビニール管は絶対に使用しないでください。ビニール管は弾力性がなく、熱にも強くありません。
- ゴム管は良質のものを用い、時々とりかえてください。(おとりかえの目安は約3年です。)
- 炊飯終了後は必ず消火したことを確かめて、ガス元せん、器具せんを閉じてください。
- お出かけや、お寝みの際にはガス元せんも必ず閉じてください。

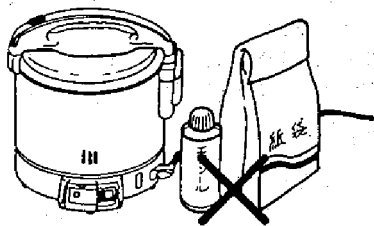


- 炊飯中は外出しないでください。
ふきんなどが器具の上に落ちたりして危険です。

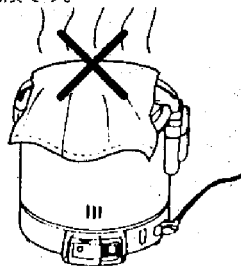


火災予防

- 器具の上や周囲には、紙袋やエアースーツ等の可燃性・引火性のあるものは絶対に置かないでください。

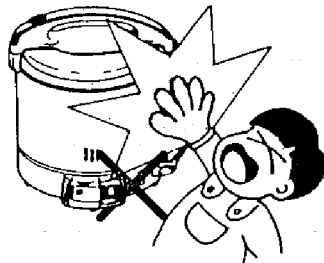


- 使用中、排気口は高温になるため、タオルやふきんなどを置かないでください。
また、排気口をふさぐと排気不良による不完全燃焼となり危険です。



やけどのご注意

- 使用中や使用後しばらくの間は、外ぶたや外わく排気口など器具のまわりが高温になっていますので、手をふれないでください。とくに小さなお子さまにはご注意ください。
- 炊飯操作するときは、点火確認窓に顔をあまり近づけないようにしてください。



特に注意していただきたいこと④

使用上のご注意

換気のご注意

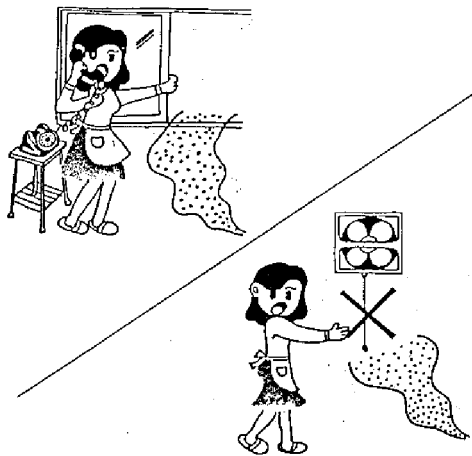
- ご使用と同時に換気扇を回すなど換気にご注意ください。
しめきった部屋で長時間使用すると空気中の酸素が減少し、不完全燃焼による一酸化炭素中毒の危険があります。
- お部屋の換気口(給気口・排気口)は常に確保し、物などでふさがないようにください。

空気調節

- この器具の空気調節は、固定式のため調節の必要はありません。そのままお使いください。

ガス事故防止

- ガス漏れに気づいたときは、すぐ使用をやめてガス元せんを閉じ、窓や戸を全部あけて大阪ガス支社または大阪ガスサービスステーションに連絡してください。



《ご注意》

万一ガスが漏れたときは、絶対に火をつけたり、換気扇その他電気器具にふれたりしないでください。(スイッチの入・切や電源プラグの抜き差し等) 炎や火花で引火し、爆発事故を起こすことがあります。

電気事故防止

- 器具には電気部品が組込まれていますので、器具に水をかけたり、丸洗いすることは絶対におやめください。
電気絶縁が悪くなり、事故のもとになります。
- ご使用前に電源コード、電源プラグなどを点検してください。特に電源コード、電源プラグをいたんだまま使用しますと、やけど、感電、火災などの原因になります。
- 電源プラグをコンセントに差し込み、本体に触れた際、少しでも漏電してしましたらすぐ使用をやめて、電源プラグをコンセントから抜き、大阪ガスサービスショップ又は大阪ガス支社に連絡してください。

落雷についてのご注意

- 落雷のおそれのあるときは使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いてください。

異常時の処置

- ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不都合が生じたときはそのままお使いにならず直ちにご使用を中止(器具せん、ガス元せんを閉じし、電源プラグをコンセントから抜く)して、十分な点検をお願いします。
(故障・異常の見分け方と処置方法については21ページをお読みください。)

日常の点検・お手入れ

- 器具を安全・快適にお使いいただくために、日常の点検・手入れは必ず行なってください。(くわしくは18ページをお読みください。)
- 万一具合が悪くなった場合は、21ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」に従って処置してください。それでも不具合な場合は、お買い求めの販売店または大阪ガス支社にご連絡ください。
- 故障又は破損したと思われるものは使用しないでください。不完全な修理は危険です。

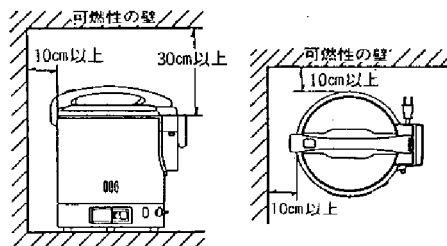
器具の設置について

設置上のご注意

設置場所および周囲の危険物、防火措置について

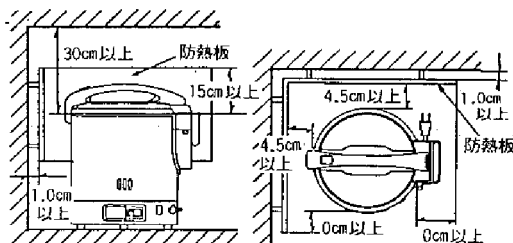
■周囲が可燃物(木製の壁、たな等)の場合

- 器具の周囲は木製のような可燃性の壁(ステンレス板などを直接張りつけた可燃性の壁を含む)から10cm以上、又上方は30cm以上離してお使いください。ステンレス板やタイルなどを可燃性の壁に直接張りつけた場合でも上記の設置距離を必ずおとりください。



■周囲が不燃物(コンクリート・レンガ・防熱板)の場合

- 器具の周囲はコンクリート・レンガ等の不燃物で造った場合や※防熱板で壁面を保護した場合は図のように設置してください。

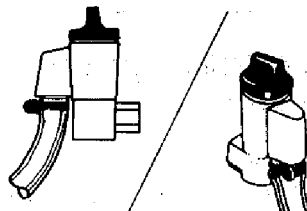


※防熱板は次の仕様で設置してください。

材質	厚さ	ご注意
石綿スレート板	3mm以上	10mm以上の空間をとり、有害な変形のないよう補強してください。
鋼板	0.5mm以上	
ステンレス鋼板	0.3mm以上	

ゴム管の接続

- ゴム管は赤線まで差し込んでしっかりとめてください。
9.5mmφのゴム管を使用し、お部屋の元せん、器具せんともゴム管口の赤線まで十分差し込んで、ゴム管止めでしっかり止めてください。ゴム管止めでしっかり止めていないと、知らずにはずれかかってガスもれが生じることがあり危険です。

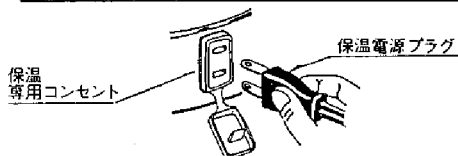


- ゴム管はガス用ゴム管を用い、折れたりおじれたりしないよう、できるだけ短くし、また器具の下を通したり、器具に触れないようにしてご使用ください。
- ゴム管の継ぎたしおよび二又分岐はしないでください。
- ゴム管は直射日光があたらないようにしてください。いたみがはやくなります。

電源コードの接続

- 電源コードは器体の表面、排気口や他の熱源などの高温部分にふれたり、途中での折れ、おじれ、引張りなどの力がかけられないようにしてください。
- 炊飯電源プラグはコンセントに、又保温電源プラグはコンセント又は下枠の専用コンセントに差し込んでください。

〈注〉保温専用コンセントは保温以外には絶対に使用しないでください。
オーブントースター・ジュースミキサーなどを使用しますと、電流ヒューズが切れ、炊飯できなくなります。



使用手順

はじめてお使いのとき

- 外ぶた、外わく、こんろ部はきれいな布で拭いてください。
かま・中ぶた・しゃもじ・計量カップなどは、中性洗剤で洗った後、きれいな布で水気を拭きとってください。

お米の洗い方

- ①お米の分量を正しく計ります。
●お米は付属の計量カップ(1杯約0.18ℓ)で正しく計ってください。

計量カップの容量

計量カップの容量(杯)	1	2	3	4	5	6
リットル(ℓ)	0.18	0.36	0.54	0.72	0.90	1.08
計量カップの容量(杯)	7	8	9	10	11	
リットル(ℓ)	1.26	1.44	1.62	1.80	1.98	

(注)0.18ℓ=1合(150g)です。

- ②お米を洗います。

- かまのフッ素樹脂被膜に傷をつけることがありますので、お米は必ず別の容器で洗ってください。
- はじめにお米を入れた容器にたっぷりと水を入れ、手ばやく2~3回かきまわし、すぐに水を捨て、お米のぬかやゴミを洗い流します。その後3~4回水をかえて洗ってください。水とぎが不十分ですと保温のとき、米ぬかの臭いが残ることがあります。
- お米を「ゴシゴシ」と洗いすぎますと米粒が割れて小さくなり、うまく炊飯できないことがありますのでご注意ください。

水加減

かまの内面には、図のように水位目盛を表示しています。
ご飯の好みや銘柄、古米、新米によって水量を加減してください。
手の加減や感覚で水量をきめることはしないでください。



(例)

※お米を計量カップで7杯入れたときの水量は、かまの内面に表示してある白米の水位目盛の右側「7」の線に合わせます。またお米を1.4ℓ入れたときの水量は、白米の水位目盛の左側「1.4」の線に合わせます。

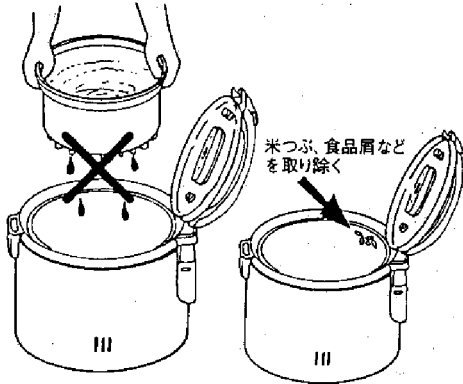
《お願い》

- ※「計量米びつ」によっては、扱い方によって出てるお米の量が変わることもありますので付属の計量カップで確かめてください。
- ※水加減は、米の質(産地による米の質などの違いもあります)によっても大きく変わる場合がありますので、かまに表示してある水位目盛は、あくまで目安としてお使いください。
- ※粉米を使用されますと、炊飯できないことがありますので炊飯される前にお米の点検をお願いします。
- ※水量はかまを水平なところに置いて、左右の目盛で合わせてください。

炊飯前の準備と確認

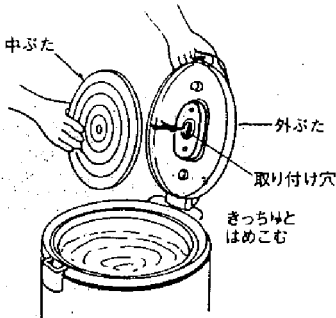
① かまを外わくに入れます。

- かまの裏底についた水は、点火不良やバーナーの目づまり、不完全燃焼の原因になりますので、きれいに拭きとってください。
- 外わくの内側・かまの裏底に米つぶ、食品屑などが付着しますと正常に炊飯できないことがあります。かまを入れるときは、必ず点検してください。



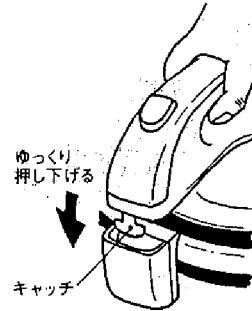
② 中ぶたを外ぶたに取付けます。

- 図のように中ぶたを持ち、片方の手で外ぶたをささえ、中ぶたつまみを外ぶたの取付穴にきっちりとはめこんでください。



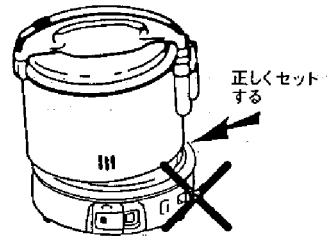
③ 外ぶたを閉めます。

- 中ぶたが外ぶたに確実に取付いていることを確認して、外ぶたハンドルを手で持ち、キャッチが確実にかかるまで、ゆっくり押し下げます。

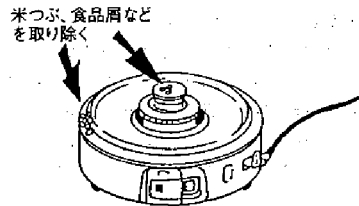


④ 外わく部をこんろ部に正しく乗せます。

- 外わく部を正しく乗せないで炊飯できません。



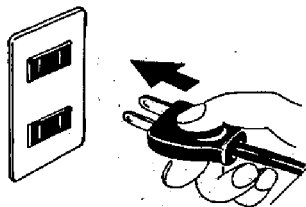
- 外わく部をこんろ部にセットした時、「入・切」スイッチが入っていると、通電ランプが点滅します。この場合は、「入・切」スイッチを押し、スイッチを「切」にしてください。
- こんろ部のしる受け、感熱部に米つぶ、食品屑などが付いていますと、正常に炊飯できません。外わく部を乗せるときに点検して、必ず取り除いてください。



使用手順③

⑤ ガス元せん・器具せんを全開にしてください。

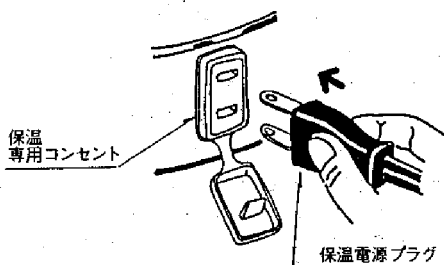
⑥ こんろ部の炊飯電源プラグをAC100Vコンセントに差し込んでください。



〈ご注意〉

外わく部がこんろ部に正しく乗っていないと、器具が作動しません。

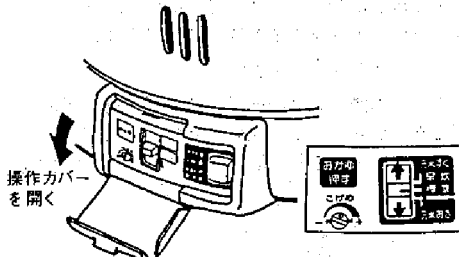
⑦ 保温が必要な場合は、外わくの保温電源プラグ(コードリール)を、下枠の保温専用コンセントに差し込んでください。



● 米を洗って水につけているときは、保温電源プラグをコンセントに差し込まないようにしてください。お米がふやけて、ご飯が炊けなくなります。保温電源プラグは炊飯するときに、コンセントに差し込んでください。

炊き方の選択

① 操作カバーを開き、炊き方選択ツマミをお好みの炊き方に合わせてください。



● この炊飯器の特長を生かすため、通常は「洗米すぐ標準」が「洗米おき」の炊き方をご都合に合わせて使い分けてください。

洗米すぐ早炊

洗米後すぐ炊飯する場合で、炊く前に必要なひたしを自動的におこないます(12分間)。炊飯は大火で炊きあげます。標準に比べ約10分早く炊けます。お急ぎの場合にご利用ください。

※水温が低い場合は米の吸水が不足しますので、ぬるま湯で洗米することをおすすめします。

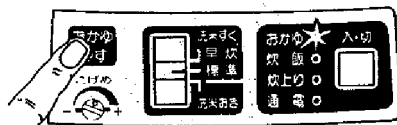
洗米すぐ標準

洗米後すぐ炊飯する場合で、炊く前に必要なひたしを自動的におこないます(20分間)。炊飯は大火から小火に切替わる自動火加減炊飯です。

洗米おき

洗米後30分以上ひたしてから炊飯する場合で、炊飯は大火から小火に切替わる自動火加減炊飯です。

② おかゆを炊くときは、「おかゆ」スイッチを押してください。(おかゆランプが点灯します。)



〈ご注意〉

必ず「入・切」スイッチの操作の前に押し、「おかゆランプ」が点灯したことを確かめてください。

● おかゆ炊きの炊き方は、料理ブックを参照してください。

炊 飯

- ①「入・切」スイッチを押してください。
 ボタンを押すと通電ランプが点灯し数秒後に点火
 します。点火したことを確かめてください。
 (バーナーに点火すれば炊飯ランプが点灯します。)



●炊き方の選択を誤ったときは、もう一度「入・切」
 スイッチを押して一度消火させてから変更し、
 再点火してください。
 おかゆ～炊飯の変更はひたし炊き中と、洗米お
 き炊きの点火直後(約10秒以内)ならば可能です。

- 炊飯途中、メインバーナーが消えたりついたりし
 ますが、自動調節しているためで故障ではありま
 せん。炊飯ランプが点灯していれば正常に炊飯を
 続けています。

《ご注意》

炊飯中に炊飯電源プラグを抜かないでください。
 一旦抜くと炊飯を継続することができません。

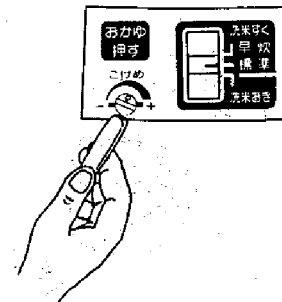
- ②この炊飯器はむらしを自動的におこないます。
 ●むらし中は炊飯ランプが点灯し、炊き上りラン
 プが点滅します。

《こげ目調節について》

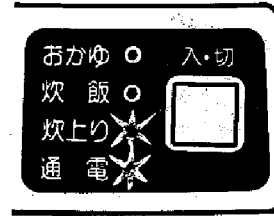
こげ目の程度を変えたい場合は、こげ目調節
 をまわしてください。

少量炊飯(0.4ℓ以下)時、釜と接する部分が硬
 い場合は、こげ目調節を⊖側に回すと緩和さ
 れます。

- ⊕側(右側)に回すとこげ目が濃くなります。
 ⊖側(左側)に回すと、こげ目が淡くなります。
 ・こげ目調節は、⊕/⊖の範囲をこえてむりに
 回さないでください。



- ③炊飯(おかゆ)が終了、ご飯(おかゆ)が食べられ
 る状態になると、炊飯ランプが消え、炊き上りラ
 ンプが点滅から点灯に変わります。
 むらし時間(約15分)を置く必要はありません。



- 付属のプラスチック製しゃもじでご飯をよくほぐ
 してください。

《ご注意》

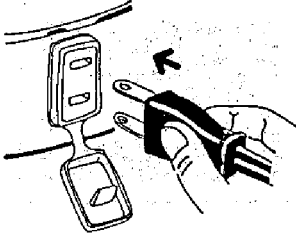
木製のしゃもじをお使いになりますと、ご飯に
 臭いが移ったり、雑菌が入ることがあります。
 なるべく付属のプラスチック製しゃもじをお使
 いください。

- ④「入・切」スイッチを押すと、炊き上りランプ・通
 電ランプが消灯します。
 ⑤ガス元せん・器具せんを閉じてください。

使用手順⑤

保 温

- 保温電源プラグをAC100Vコンセントに差し込んでください。
(コードリールケース前部の通電ランプが点灯します。)
こころ部の保温専用コンセントをご使用ください。

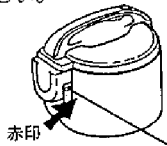


〈ご注意〉

炊飯電源プラグがAC100Vコンセントに差し込まれていることを確認してください。

(1)電源コードの出しかた

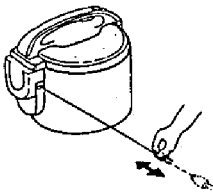
電源プラグを引っばりますと、電源コードが出てきます。赤印が見えたら、これ以上は引っばらないでください。



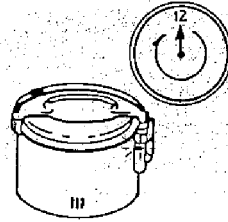
(2)電源コードのしまいかた

電源コードをかるく引っばって戻しますと、自動的に巻き込まれます。

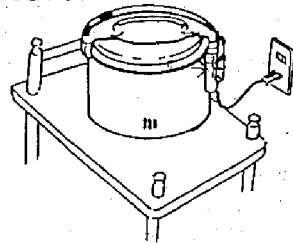
※電源コードを出し入れする際には電源コードをねじったり、手で無理やり押し込んだりしないでください。自動的に巻き込まないようにします。



- 保温時間は12時間までにしてください。
保温時間が12時間以上になりますと、イヤなにおいがしたり変色しやすくなります。ご飯はできるだけ早目にお召しあがりください。



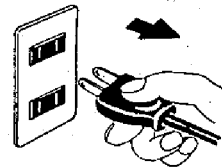
- 保温中、食事中は必ず保温電源プラグを差し込んだままにしてください。
炊飯終了後、別の場所で保温される場合でも、保温電源プラグを別のコンセントに接続し、保温を続けてください。



- 保温終了後は必ず、保温電源プラグをコンセントから抜き、電源コードをコードリールに収納してください。

保温電源プラグをコンセントから抜く場合、図のようにプラグを持っておこなってください。コードを引っばりますと、断線することがありますので、絶対におやめください。

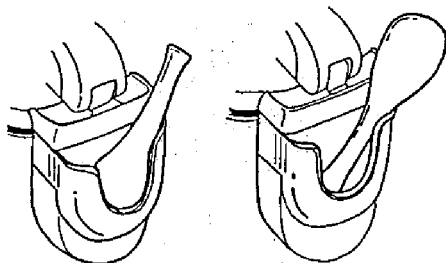
※電源コードをコードリールに収納する際には、電源コードの汚れを拭き取ってください。汚れたまま収納するとコードリールの故障の原因になります。



使用手順⑥

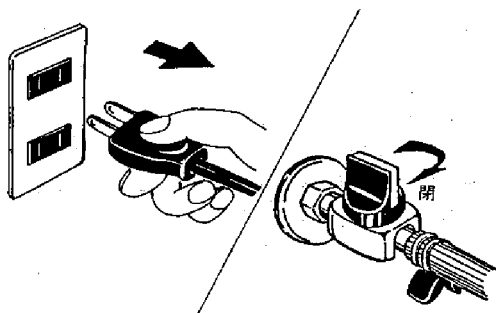
しゃもじ立て

- しゃもじ立ては、図のようにお使いください。
- しゃもじ立ては、つゆ受けの補助を兼ねていますので炊飯が終わるごとにお手入れしてからお使いください。



使い終わったあと

- 炊飯電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ガス元せんを開けてください。



停電後の使用方法

- 停電中は炊飯できません。
- 炊飯中に約5分以上停電し、再通電した時は、通電ランプが点滅し、停電した事をお知らせします。このような場合は、「洗米おき」の炊き方で再点火してください。ただし、停電時間の長さや、停電時の炊飯状態によっては、うまく炊き上げられないことがあります。
- 停電時間が約5分以内であれば、再通電後再び炊飯を始めます。ただし、通常の炊き上がり状態と異なる場合があります。

〈ご注意〉

おかゆ炊きの場合、約5分以内の停電であっても炊飯を中止することがあります。

ランプ点滅時などの処置方法

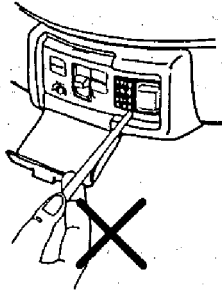
次のような異常が発生したときは、いずれも「洗米おき」の炊き方で再点火してください。

- 炊飯中に異常が発生して炎が消えたり、点火しなかった場合には、自動的に2回点火動作をおこなない、再点火すれば再び炊飯をおこないます。再点火動作をおこなっても点火しなかった時、全部のランプが点滅し異常が発生したことをお知らせします。このような時には「故障・異常の見分け方と処置方法」に従って処置してください。
- 処置の方法がわからない場合や処置できないときは、お買い求めの販売店またはもよりの大阪ガス支社にご連絡ください。
- 異常が発生したあとの炊飯では、通常の炊飯状態と異なる場合があります。
- 通電ランプのみが点滅している場合は、「入・切」スイッチを押し、再点火してください。

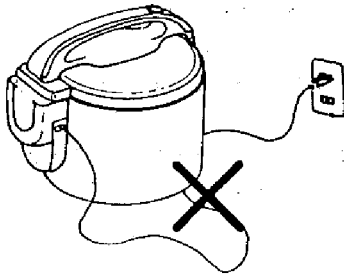
使用手順⑦

操作上のご注意

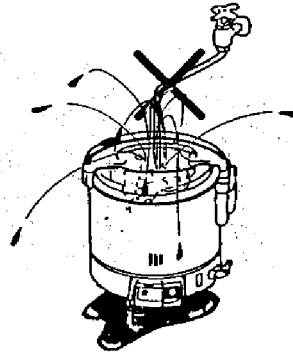
- ツマミ・スイッチは必ず手で操作してください。



- ごんろ部の感熱部、消火安全装置、種火バーナーなどには物をあてないでください。故障し、正常に炊飯できなくなります。
- 器具を持ち運びされる際には、外ふたが確実にしまっていること、また炊飯・保温電源プラグをコンセントから抜いていることを確認してください。
- 器具を持ち運びされる際は、外ふたハンドルのキャッチ押しボタンには触れないでください。不意に外ふたがあき危険です。
- 外ふたの開閉は静かにおこなってください。
- 付属のしゃもじは、ご飯以外(いためもの、汁ものなど)には使用しないでください。いためものなどに使用されますと、しゃもじがこげたり、溶けたりすることがあります。
- 保温電源コードは必要な長さだけコードリールから取り出して使用してください。また使用中は、本体・排気口などに触れないように、コンセントに接続してください。



- 器具には電気部品が組込まれていますので、器具に水をかけたり、丸洗いは絶対におやめください。



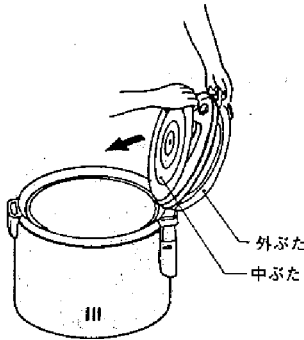
- 米を洗って水につけているときは、保温電源プラグをコンセントに差し込まないようにしてください。お米がふやけて、ご飯が炊けなくなります。保温電源プラグは炊飯するときに、コンセントに差し込んでください。

- 外ふたをしめたとき少しガタつくことがあります。中ふたは、かまに密着していますので特に問題はありません。
- 他のごんろの近くでお使いになられた場合、料理の油などが器体本体についてきたくなります。できるだけごんろからはなして設置してください。もし本体に油などがついた場合は、できるだけ早いうちによくしぼった布で拭きとってください。
- 炊飯および保温は、必ず中ふたおよび外ふたを取付けておこなってください。
- かまの内側に刻印してある水量目盛を参考にして水加減してください。極端に水量を多くして炊飯しますと、ふきこぼれますのでさけてください。
- かまや中ふたを落したり、物にぶついたりしないでください。炊飯性能や保温効果が低下します。
- 中ふたのフロートは樹脂製ですので、お手入れの際、無理な力を加えると変形することがあります。

使用手順⑧

操作上のご注意

- 酢を入れて炊飯するのはやめてください。かまが腐蝕することがあります。
- 保温中、食事中にテーブルの上に置いた外わく部を押したり、引っばったりして移動させないでください。テーブルに傷がつくことがあります。
- 中ぶたを外ぶたより取り外すときは、図のように中ぶたを持って片方の手で外ぶたをささえて行ってください。



- 「入・切」スイッチを「入」の状態のまま、外わく部をセットしますと、通電ランプが点滅しますが故障ではありません。もう一度「入・切」スイッチを押し、スイッチを「切」にしてください。

フッ素樹脂加工のかまの取扱いについて

お手入れの簡単なフッ素樹脂加工のかまの特長を十分に発揮させていただくため、次のようにお使いください。

- シャもじは、付属のものを使い金属性のものや、先のとがったものは使わないでください。
- みがき粉やかたいタワシなどは、使用しないでください。スポンジを使用し洗剤溶液で軽く洗っていただくだけできれいになります。
- かまのフチをかたいものなどに当てないでください。
- 万一、フッ素樹脂加工面に傷がついてもご飯の炊き上りになんら支障はありません。
- かまは変色することがありますが、ご使用上の支障はありません。

〈ご注意〉

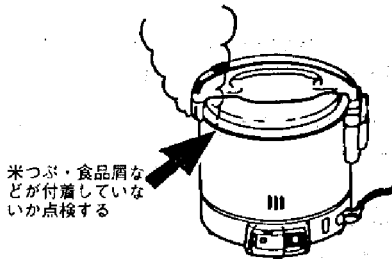
フッ素樹脂加工は、永久的ではありません。水質やご使用方法などにより異なりますが、しばらくお使いになりますと、ピンホール(針先程度の穴)や剥離が発生してきます。ピンホールや剥離が発生しても当初はフッ素樹脂の性能には影響ありませんし、衛生上も問題ありません。しかし、著しく性能が低下してご使用に不便をきたすようになりましたら、かまだけをお買上げの店で買いかえてください。

使用手順⑨

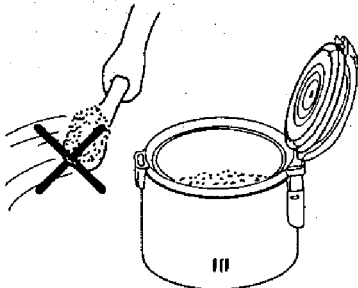
保温について

保温したご飯をおいしく召しあがっていただくために、次の点にご注意ください。

- なるべくかま周囲にご飯粒がつかないようにほくしてください。
かま周囲についたご飯粒は乾燥してパサパサになることがあります。
- ご使用中、かまや中ふたのふちにこびりついたご飯粒は、ぬれフキンできれいに拭きとってください。
ご飯粒がついてますと、かまと中ふたの密着が悪くなり蒸気が抜けて、うまく保温できません。



- 冷えたご飯の保温はおやめください。
保温効果がさがり、いやな臭いのもとになります。
また同様に保温しているご飯の上に冷えたご飯や、炊きたてのご飯を入れないでください。



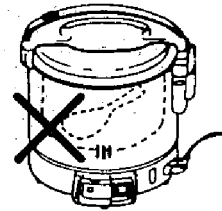
- ご飯が少量になる程、パサパサになったり、黄ばみやすくなります。
- おかゆ・ませご飯・赤飯などは保温しないでください。

- 中ふたのフロートが変形していないかお確かめください。
中ふたのフロートが極端に変形していると保温中に蒸気が抜けてご飯が乾燥します。



フロートが変形していないか、確かめる。

- かまの中にしゃもじを入れたまま保温しないでください。

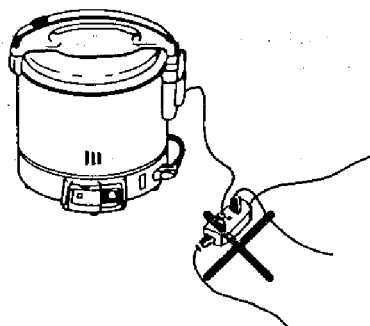


- なるべく付属のプラスチック製しゃもじをお使いください。
- つゆ受け容器のしゃもじ立てに立ててください。
- 保温はすべて電気でおこなってください。
- ご飯以外の保温はしないでください。
ご飯以外のおいが、かまについたり、ご飯以外のものの変質することがあります。(例えば、みそ汁・スープなど)
- 保温中、外ふたは確実にしめておいてください。
保温効果を高めるためにも、外ふたの開閉はできるだけ少なくしてください。
- 保温中、停電したときは、短時間(約10分以内)なら問題ありませんが、長時間になってご飯の温度が下がってしまった場合は、再度保温しないようにしてください。

使用手順⑩

保温について

- 電源は正しく配線されたコンセントからおとりください。



- 保温中、外わく部を移動させる場合は、保温電源プラグを別のコンセントに接続し保温を続けてください。
- 外わく部だけで保温する場合は、平らな所に置いてください。
- お手入れが不十分な時には、保温したご飯にイヤなおいがつくことがあります。おいしくお召しあがりいただくためには、18ページをご参照の上お手入れを十分にしてください。

《保温時のご飯の乾燥をやわらげるために》

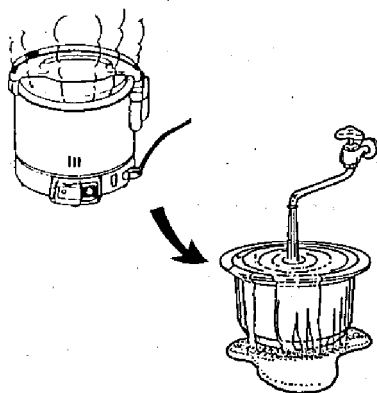
- 保温時は、かま壁面とご飯が接しないように、中央部に山形に寄せてください。
- 少量のご飯を保温する場合は、早目にお召しあがりください。



万一イヤなおいがついたとき

万一、保温電源プラグの差し忘れ等で一旦イヤなおいがついた場合は、それ以後の保温でイヤなおいがつくおそれがありますので、次の炊飯をする前に下記の要領で自動消火するまで煮沸してください。

- よく水洗いしてもイヤなおいがついたときは、次の要領で、かまや中ぶたの煮沸をおこなってください。
 - ①かまに付属の計量カップ一杯の水を入れます。
 - ②かま・外わくをこんろ部にセットし、「洗米おき」炊飯の要領で操作し、炊き上りランプが点灯するまで煮沸してください。
- このとき、こげ目調節は最も⊕側に合わせてください。



- ③②で煮沸した後、かまや中ぶたをよく水洗いしてください。
- ※消火直後は、かまや中ぶたは、あつくありませんので取扱いには十分に注意してください。
- 上記の煮沸をしていただくとともに、正しい保温のしかたをもう一度お確かめいただき、イヤなおい再びつかないように正しくお使いください。
 - 正しく保温していただくための各ご注意点が守られていない場合は、煮沸をおこなっても再びイヤなおいがつくことがあります。
 - 1回の煮沸で完全ににおいがとれない場合は、煮沸をもう一度繰り返してください。

日常の点検とお手入れ

点検・お手入れの際のご注意

- お手入れされるときは、必ずガス元せんを開め、炊飯・保温電源プラグをコンセントから抜いてください。また器具が過熱しているときは、さめてからおこなってください。
- ガスの通路部分、電気回路部分は絶対に分解しないでください。
- ふきこぼれたときは、その都度お手入れをしてください。そのまま放置しておくと、塗装部分がはがれたりすることがありますのでご注意ください。
- お手入れの際には、金属タワシは使わないようにしてください。

点 検

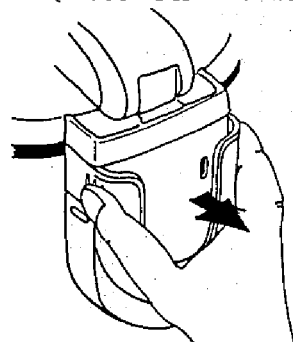
- 安全にお使いいただくためにときどき点検してください。
- 器具の上や周囲に燃えやすいものをおいていませんか？
- ゴム管が古くなってひび割れしたり、器具に触れたり、折れたり、ねじれたりしていませんか？
- ゴム管はゴム管口の赤線まで差し込まれ、ゴム管止めで止めてありますか？

お手入れ

- かま・中ぶた
- スポンジや、布などのやわらかいものを使い洗剤溶液で洗ってから乾いた布で水分を拭きとってください。
- みがき粉や固いタワシなどは、傷がつきますので絶対に使わないでください。
- 特に中ぶたのフロートの下はよく洗ってください。

- つゆ受け容器
- つゆ受け容器にたまった水は、炊飯のつゆ捨てて、中をきれいに洗ってください。

〔つゆ受け容器のはずし方〕



つゆ受け容器のはずし方は、図のように、つゆ受け容器に指をかけ引っぱってください。

そ
の
つ
ど

お手入れ

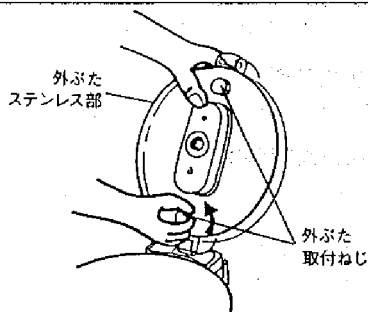
そ
の
つ
と

● 外ふた

- ・ステンレス部は、スポンジや布などやわらかいものを使い、洗剤溶液で洗ってから乾いた布で水気を拭きとってください。
- ・樹脂部は乾いた布で拭いてください。汚れのひどいときは、洗剤溶液を含ませた布で汚れを落した後、洗剤分を拭きとり、乾いた布でよく拭いてください。

《ご注意》

- 特に中ふた取付部の周囲、凸部は十分なお手入れをお願いします。
- ・ 外ふたステンレス部の取り外しは、図のように外ふたハンドルを持ち外ふた取付ねじ2ヶ所を外し、ステンレス部を取りはずしてください。
- ・ お手入れが終了したら、もとどおりにきっちりと取付けてください。



と
き
と
き

● 外わく部

- ・ よくしぼった布で拭いてください。汚れのひどいときは洗剤溶液を浸した布で汚れを落した後、洗剤分を拭きとり、乾いた布でよく拭いてください。

《ご注意》

- ・ みがき粉は使用しないでください。
- ・ アルコール、シンナー、ベンジンなどでは、絶対に拭かないでください。もし拭かれますと、樹脂がおかされますのでご注意ください。
- ・ 外わくはぬれたままにしておきますと錆びることがありますので、いつもきれいに拭いてください。

● ごんろ部

- ・ ごんろ部外側の表面は外わくと同じ要領で拭いてください。また銘板類は印刷が消えるおそれがあるため、タワシやクレンザーなどでこすらないでください。しる受けが汚れたときは、洗剤溶液を含ませた布で拭いてから乾いた布で水分を拭きとってください。

《ご注意》

- ・ ごんろ部には電気部品が組み込まれていますので、ぬらさないよう注意してください。
- ・ しる受けをごんろ部から取りはずさないでください。
- ・ 感熱部に米つぶ、食品屑などが付着しますと、正常に炊飯できませんので、つねに清潔に保ってください。

安全装置が作動したときの処置方法

処置について

本製品には次の安全装置が組込まれています。安全装置が作動した場合、次の方法並びに21ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」により処置してください。

消火センサー・過熱防止装置・異常状態警報装置

消火センサー

バーナーの炎が消えたときや、バーナーに点火しなかったとき作動し、自動的にガス通路を閉じます。

過熱防止装置

器具内の温度が異常に高くなったとき作動し、自動的にガス通路を閉じます。

異常状態警報装置

電気回路などに異常が生じたとき作動し、自動的にガス通路を閉じます。

これらの安全装置が作動すると操作パネルの全ランプが点滅し、異常があったことをお知らせします。

このときは、ガス元せん、器具せん、炊飯電源プラグを確認し、10ページの使用手順にしたがって再操作してください。

それでも正常に作動しない場合は、21ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」により処置してください。

処置方法や原因のわからないときは、お買い求めの販売店または、大阪ガス支社へご連絡ください。

故障・異常の見分け方と処置方法

ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不都合が生じたときは、そのままお使いにならず、直ちにご使用を中止して、十分な点検をお願いします。

現象 原因	処置方法													参照ページ			
	器具が作動しない	ランプが点滅する	ランプが点灯しない	炊飯できない	早切れする	自動消火しない	こげがひどい	ふきこぼれがひどい	おかゆが炊けない	選択した炊き方通り炊けない	バーナーの燃焼が異常	途中消火する	保温できない		ご飯の表面が乾燥する	ご飯の表面がベトベトする	
停電している、停電した	○	○	○							○		○	○			通電をまつ	13
器具せん・ガス元せんの開け忘れ、不十分		○	○	○							○					全開にする	10
釜のセット不良、入れ忘れ	○			○												正しくセットする	9
電源プラグがぬけている	○												○			電源プラグをコンセントに差し込む	10
炊飯法の誤り				○				○	○	○						使用手順を参照	9
米量・水量が適切でない				○	○			○	○	○						使用手順を参照	9
こげ目調節不良					○		○									使用手順を参照	11
感熱部の不良		○			○		○	○	○							点検を依頼する	☎
ヒューズ切れ	○															点検を依頼する	☎
電装部品の不良	○	○	○	○			○	○	○	○						点検を依頼する	☎
点火装置のよごれ		○											○			汚れをとる、それでも直らない場合は点検を依頼する	☎
点火装置の不良		○	○		○		○	○					○			点検を依頼する	☎
ヒーター回路の不良														○		点検を依頼する	☎
保温自動温度調節不良														○	○	点検を依頼する	☎
バーナーの炎口づまり		○	○	○							○	○				つまりをとる、それでも直らない場合は点検を依頼する	☎
ノズルづまり		○	○								○					点検を依頼する	☎
おかゆスイッチ不良								○	○							点検を依頼する	☎
電磁弁の不良						○										点検を依頼する	☎
中ふた・フロートの変形														○		使用手順を参照	16
ガスゴム管の不良		○	○	○												ガスゴム管の点検・取替	7

処置方法や原因のわからないときは、お買い求めの販売店または大阪ガス支社へご連絡ください。

保管(長期間使用しない場合)

各部の汚れを取除き、十分に乾燥してからほこりなどの異物が入らないようにビニールに包み、お求めになったときのバックケースに入れ湿気やほこりの少ないところへ保管してください。
特にガス通路部分(ゴム管口など)には、ほこりが入ってガス通路をつまらせないようにしてください。

アフターサービスのお申し込み

サービスのお申し込み

- 21ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項を見てもう一度ご確認ください。
- 確認のうえ、それでも不具合な場合、あるいはご不明な場合は、ご自分で修理なさらないでお買い上げの店またはもよりの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社にご連絡ください。なお、ご連絡いただくときは、次のことをお知らせください。

- (1) 製品名…ガス炊飯電子ジャー
- (2) 品番…こんろ部の右側面に貼付してあります。

(例)

(N)11-812(U)

大阪ガス株式会社

- (3) 現象…(できるだけ詳しく)
- (4) 道順…(できるだけ詳しく)

転居される場合

- ガスには都市ガス14種類およびLPガスの区分があります。

ガスの種類が異なる地域へ転居される場合には、部品の交換や調整が必要となりますので、転居先のガスの種類を確認の上、大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社にご相談ください。

この場合、調整・改造に要する費用は保証期間内でも有料となります。

保証書について

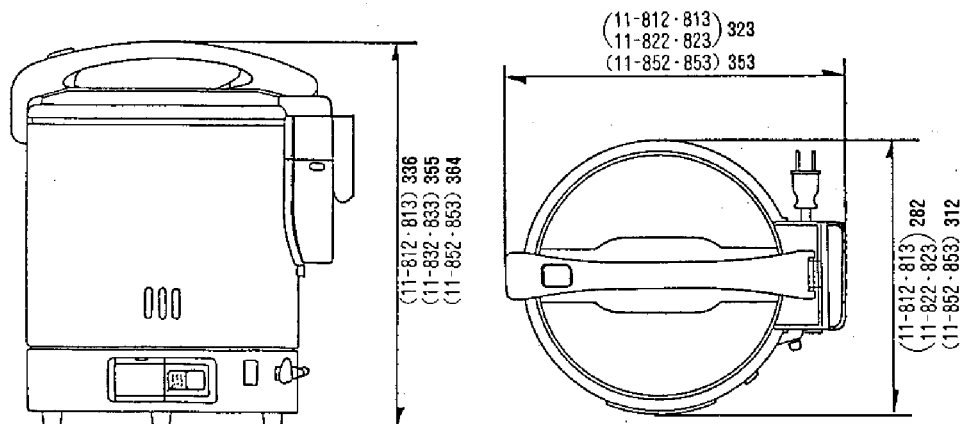
- この器具には保証書がついています。

このガス炊飯電子ジャーは保証書に記載のように、器具の故障について修理いたします。詳しくは保証書をごらんください。

保証書を紛失されますと、無料修理期間であっても修理費をいただくことがありますので、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

寸法図と仕様一覧表

■寸法図



■仕様一覧表

品名		ガス炊飯電子ジャー		
コード		11-812-813	11-832-833	11-852-853
形式の呼び		RR-05MB	RR-07MB	RR-10MB
炊飯器 (ℓ)	最大	1.0	1.4	2.0
	最小	0.2	0.2	0.4
外形寸法	高さ(mm)	336	355	364
	幅(mm)	323	323	353
	奥行(mm)	282	282	312
重量(kg)		5.5	5.7	6.3
ガス接続		φ9.5 ゴム管		
電源		100V・50/60Hz共用		
ガス消費量	都市ガス6C(kcal/h)	1,300	1,350	1,500
	都市ガス13A(kcal/h)	1,300	1,350	1,500
	都市ガス6A(kcal/h)	1,300	1,350	1,500
	LPGガス(kg/h)	0.108	0.113	0.125
消費電力 (W)	炊飯時	14	14	14
	保温時	68	74	93
点火方式		スパーク点火方式		
付属品		計量カップ・しゃもじ		

メモ

おねがい

ガスくさいときは、お部屋の元せんを閉め、窓を全開してから（火気に注意して）大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。

本社ガスビルサービスセンター・支社所在地および電話番号

本社ガスビル サービスセンター	☎541	大阪市東区平野町5-1	☎大阪06(202)2221
南支社	☎557	大阪市西成区玉出東2-9-41	☎大阪06(652)0001
北支社	☎532	大阪市淀川区十三本町3-6-35	☎大阪06(301)1251
堺支社	☎590	堺市住吉橋町2-2-19	☎堺0722(38)1131
北摂支社	☎569	高槻市藤の里町39-6	☎高槻0726(71)0381
阪神支社	☎682	西宮市和上町4-1-1	☎西宮0788(28)3101
東部支社	☎678	東大阪市稲葉2-3-17	☎河内0729(62)1131
京阪支社	☎673	枚方市西田宮町16-17	☎枚方0720(41)1251
神戸支社	☎650	神戸市中央区相生町5-13-10	☎神戸078(576)5231
京都支社	☎604	京都市中京区烏丸通御池角	☎京都075(231)8151
奈良支社	☎631	奈良市学園北2-4-1	☎奈良0742(44)1111
和歌山支社	☎640	和歌山市本町1-1-1	☎和歌山0734(31)2481
姫路支社	☎670	姫路市神屋町4-8	☎姫路0792(85)2221
東播支社	☎675	加古川市加古川町粟津29-1	☎加古川0794(21)1801
豊岡支社	☎668	豊岡市三坂町6-57	☎豊岡07962(3)2221
湖南支社	☎525	草津市追分町宇荒堀680-1	☎草津0775(82)5311
彦根支社	☎522	彦根市大東町12-1-1	☎彦根0749(22)3131
(長浜営業所)	☎526	長浜市南呉服町3-4	☎長浜07486(2)7171

その他当社サービスステーション、およびサービスショップ

大阪ガス株式会社